「訪問教育グループ」

＜研究内容＞

6月	7月	8月	9月	10月	10月
研究主題について意見の交流	研究主題、年間予定の検討	事例研① 課題解決	事例研② 在校との交流	事例研③ 意思伝達	iPad教材

10月	11月	1２月	２月	2月	2月
事例研④ 覚醒を促す	討議・交流	研究報告会に向けて	事例研⑤	討議・交流	討議・交流

1月～3月
＜討議・交流＞ 病院訪問、音楽を使った学習や制作活動についての学習、端末機器を使った学習、その他

自活教諭による研修会「介助・ポジショニングについて」

＜事例研究＞

	主 な 内 容 、 視 点
事例①　小	課題点について、<u>インシデント・プロセス法</u>（※）で討議 ※ 参加者から質問⇒それぞれが「自分だったらこうする」という考えを示す
事例②　中	在校（当該学年）の生徒との交流について ・スクーリングが難しい状況の中、映像を使って交流を行う
事例③　小	言語や表情での読み取りが難しいケースについて ・視線や指の動きでの意思の表出について
事例④　高	覚醒を促す指導について ・言葉がけや軽い身体接触などはたらきかけを調整して覚醒を促す
事例⑤　高	授業内容、進路指導について

事例研究④　高等部生徒

テーマ「覚醒を促す」

眠っている：話しかけると、口や手をわずかに動かすことがよくある

＜生徒の動き＞

- 話しかけに反応がある。
- 反応（動き）が多くなる。
- 全身に力を入れる。
  （1回ではしっかり覚醒しない）
- 目を開き始める。
- 覚醒する。

＜教師の働きかけ＞

- 反応（動き）があったときに賞賛する。
- 様子を見ながら、働きかけを続けたり、休んだりする（すぐに覚醒しない時は働きかけを多くしない）。
- 反応が大きくなってきたり、目を開け始めてきたら働きかけを調整。
  声の大きさ、顔との距離、身体接触↑

＜討議・交流＞

	内　　容
①	音楽を使った学習についての取り組みの交流 （在宅訪問、オンライン）
②	作品制作などについての取り組みの交流 （題材、支援の方法、補助具、学習を行う上で大切にしていること）
③	端末機器を使った学習についての取り組みの交流

＜実技研修＞　※自立活動教諭による実技研修

１２／１５（水）に実施

研　修　内　容
・研修内容がすべての子どもに共通して当てはまることではないことを理解し、子どもの個別の相談については、同行訪問やスクーリングで行うことを確認の上、研修を行う。 ・ポジショニングや介助（抱き上げ）について実技研修を行う。 ・内容については、訪問教育対象となるような障害の重い子ども（痙直型四肢麻痺、等）を想定して、共通することが多い内容（クッションなどの使い方、負担の少ない抱き上げ方、等）を中心とする。

＜成果＞

事例研究

・実践について話し合い、指導内容や方法などお互いに参考にすることができた。

討議・交流

・指導のちょっとした工夫や教材などお互いに交流することで、日々の指導に参考にすることができた。